

平成29年1月11日

陸内協 平成 29 年 新年賀詞交歓会 ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。只今、ご紹介に預かりました笠井と申します。

平成29年の新春を迎え、高い席からではございますが、陸用内燃機関協会を代表し、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

本日は新年早々、経済産業省の河野(コウノ)さまを初め、多くの関係省庁のご来賓の皆さまと会員各社の皆さまにお集まりいただき、ありがとうございます。先ず、関係省庁並びに関係機関の皆様には、日頃より格別なるご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、会員各社の皆さまにおかれましては、平素より当協会の運営に関し、様々なご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。こうして、お集まりの皆様のお顔を拝見していると、きっと年末年始の休暇をご家族の皆様と共に過ごされ、「よし、今年もがんばろう」と、既に、決意を新たに仕事初めを迎えられたのだらうと、拝察致します。それでは前置きはこれくらいにして、去年の日本経済の動向から、少し振り返っていきたいと思います。

去年は、中国経済に対する懸念と原油安の2つが要因と考えられている世界同時株安に始まり、更には北朝鮮の不穏な動きが加わり、実に不安定な要素の多い年明けを迎えたと記憶しております。更にその後しばらくは、日銀のマイナス金利導入や、消費増税の延期など、日本経済は、やや先が見通しづらいつづらいつ展開が続きました。一方、海外に目を向けてみると、世界各国で次から次へと報道されてくる痛ましいテロ事件、更に英国のEU離脱表明があり、11月には米国大統領選挙の思わぬ展開等、毎日驚きのニュースが世界を駆け巡りました。

こうして昨年一年を振り返りますと、実に様々な不測の出来事が起きており、今後の日本経済の先行きを考えるにあたり、未だ不透明感が拭い去れない状況が続いていると認識しています。それにも関わらず、2016年の実質GDPによる日本経済成長率は、2015年実績と同等の0.5%前後と予測されており、数値から見ても日本経済は緩やかながらも、着実に回復基調を示しています。まだまだ、日本経済の先行きは見通しづらく、直近の円ドル為替も1日単位で目まぐるしく変動する中で迎えた新春ですが、今年も皆様と一緒に、更に明るい年になることを、切に望む次第です。

続いて、会員各社さまの最も気になる陸用エンジンの生産実績状況についてお話し致します。当協会では毎月の生産状況をホームページに公表しておりますが、昨年1月から9月までのグローバルでの生産台数は、1,072万台となりました。この9ヶ月間の実績値を単純計算にて年度の数値に置き換えると、1,431万台となり、対前年24万台増のプラス1.7%の見込みです。これは、会員各社さまが連携し合い、環境対応を含めた日本製エンジンとしての品質作りこみと、市場競争力を上げ続けてきた結果であると認識しています。今年も、是非この勢いを落とさぬよう、本日お集まりの業界関係者の皆様で情報を共有しながら、更なる日本のポジション強化につなげていきましょう。

次に、協会の最重要活動として参画している国際内燃機関工業会(IICEMA)の環境対応活動についてご紹介致します。私どもが手掛ける陸用エンジンは、ノンロードエンジンというカテゴリーに入り、エンジンでは自動車用や二輪車用に次ぐ大きな市場を持っております。

IICEMA の活動とは、ノンロードエンジンを扱う世界 5 地域 9 団体が連携して、排出ガス等の規制に関する国際協調を業界団体の立場から推進する取り組みを進めております。世界の排出ガス規制では、自動車や二輪車の強化の話が主流ですが、ノンロード分野のエンジンについても、今後更に各種の規制が強化される方向であることは疑う余地もございません。昨年 9 月には 2019 年から始まる欧州 Stage V の規制が正式公布されました。これは次の段階として最も進んだレベルの排出ガス規制になるものですが、IICEMA を通じて各国との情報を密にし、最新の環境規制に対応するべく取り組んで参ります。

さて、これまで私どもが手掛けてきた高い信頼性を持つ陸用エンジンは、グローバルで、建設機械・産業機械・農林業機械・発電機などの産業用機械の動力源として発展し、愛されてきました。その過程においては、環境対応をはじめとする様々な社会ニーズの変化に対して、会員各社のご努力によつて的確に応えることで成長してきました。協会としても、陸用エンジン業界が今後も我が国の産業の一翼を担い活力ある経済社会を実現していく為に、その責務をしっかりと果たし続けていく所存です。

最後になりましたが、本年は「商売繁盛につながる」と言われている酉年です。酉(鳥:取)年の由来をたどると、まさしく「取り込む」につながり、運氣もお客様も取り込める年と言われています。緩やかではあるものの、着実に回復基調である日本経済の追い風に乗れ、さらに良い年周りであることも味方に引き入れ、皆さま方にとりまして最良の年でありますよう、心からお祈り申し上げますとともに、会員各社さまの今後のますますのご発展と、お集まりの皆さまのご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上